

教校部「選択集」藤澤信照

【講義の概要】

法然聖人の主著である『選択本願念仏集』は、従来、聖道門の寓宗とされていた浄土教を、聖道門とは法門構造の異なる仏教であることを明らかにすることによって一宗として独立された、「浄土宗」立教開宗宣言の書である。

またこの書は、冒頭に「選択本願念仏集」と標題され、この書の結論ともいうべき三選の文の最後に「名を称すれば、かならず生ずることを得。仏の本願によるがゆゑなり」と言われているように、「称名念仏は本願に選び取られた行であるがゆゑに、往生決定の業である」ということを明らかにされたものである。

宗祖は、「選択本願念仏」の教え、すなわち「浄土宗」という教えが、「本願力回向」の法義であることを明らかにするために、『顕浄土真実教行証文類』を著して、これを「浄土真宗」と名づけられたのである。したがって、宗祖の教えを学ぶにあたっては、『選択本願念仏集』に説かれた法義を、よく理解しておく必要がある。

この講義では、本来ならば『浄土真宗聖典全書』一、三経七祖篇をテキストとして読むべきであるが、註釈を参照しながら原典を読み込んでいくことをねらいとしているため、『浄土真宗聖』七祖篇（註釈版）をテキストとして用いる。また、浅井成海著の『聖典セミナー 選択本願念仏集』もサブテキストとして使用する。

なお、この講義は昨年度の後期から始まったばかりなので、今年度は、はじめにこれまで拝読した「二門章」についてはその概略を講述し、それに続く「二行章」から本文を拝読していく。今年度より受講される方は、その点をご了承の上、受講してほしい。

【テキスト】

『浄土真宗聖典』七祖篇（註釈版）

浅井成海著『聖典セミナー 選択本願念仏集』（本願寺出版社）

【参考図書】

武田正晋著『選択本願念仏集講読』（永田文昌堂）

石井教道著『選擇集全講』（平楽寺書店）、他

【自己紹介】

藤澤 信照（ふじさわ しんしょう）

1958（昭和 33）年、鹿児島県川内市（現、薩摩川内市）生まれ。

鹿児島大学理学部卒業。行信仏教学院ならびに行信教校卒業後、滋賀県東近江市浄光寺に入寺。その後、龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了。

現在、行信教校講師、元布教使課程専任講師、滋賀県東近江市浄光寺住職。

著書

『親によばれて－浄光寺報法話集－』

仏教讃歌「本願力のめぐみゆえ」親鸞聖人『正信偈』意識、解説と味わい

共著『大きな字で読みやすい 浄土真宗やわらか法話 2』

共著 2018（平成 30）年真宗教団連合法語カレンダー『月々のことば』

論文 『行信学報』などに、多くの研究論文を発表

【学生さんへのメッセージ】

行信教校には昭和 56 年に入学し、滋賀県のお寺に入寺するまで、5 年半ほど在籍し、寮生活をしていました。講師ではありますが、皆さん方の先輩でもあります。寮生活、学校生活についてのこと、勉強方法について、気軽にたずねてもらったらうれしいです。

滋賀県のお寺は公共交通機関が不便なところにあるので、毎回、車で約 1 時間半かけて学校に通っています。お寺のあるあたりは、大阪の町中と違って、自然がいっぱいのところで。機会があったら、ぜひ遊びに来てください。

趣味は音楽。クラシックギター演奏。地域のコーラスの指導もしています。